



大正4年同人誌「海鳥」の仲間達と  
前列右から2人目が千代



明治32年2歳の千代



大正3年岩国高等女学校卒業時の千代  
三井永一画



代表作「おはん」初版本  
装幀：木村荘八



自慢の錦帯橋と千代

生誕115年特別企画展  
宇野千代生家開館7周年記念

# 宇野千代

故郷こそ私である



岩国寿司で来客をもてなす千代

「桜も日本一、錦帯橋も日本一、こんな日本一の故郷を持っている幸せ者が二人とあるだろうか。私はとても故郷に感謝している。人間をつくるのは、故郷なのです。」と語った宇野千代。その心の原点は常に故郷岩国にあった。

本展では、宇野千代生誕115年・宇野千代生家開館7周年を記念し、故郷岩国と切り離すことの出来ない文学作品を中心に、その生涯の魅力をも本人の文章と言葉、貴重な展示品によって解き明かします。



千代が生涯大切にしていた信玄袋



## 宇野千代生家 UNO CHIYO SEIKA MUSEUM

NPO 宇野千代生家  
〒741-0082 山口県岩国市川西2-9-35  
☎0827-43-1693

### 宇野千代 うのちよ

明治30年山口県岩国市生まれ。大正3年岩国高等女学校卒業。大正10年処女作「脂粉の顔」で懸賞短編小説一等入選。作家活動に入る。昭和10年初期代表作「色ざんげ」を発表。昭和11年スタイル社設立。女性誌「スタイル」創刊。昭和32年代表作「おはん」で野間文芸賞、昭和33年女流文学者賞受賞。昭和46年「幸福」などで女流文学者賞。昭和47年芸術院賞受賞、昭和48年「生きて行く私」を発表、ベストセラーとなる。平成2年岩国市名誉市民となる。文化功労者として顕彰される。平成8年没。勲二等受勲。享年98歳。